

hamamatsu monodukuri meister

浜松ものづくりマイスター

平成27年度 浜松ものづくりマイスター認定者

有限会社雪山シボリ

代表取締役社長 ゆき やま ゆう じ 雪山 有司 氏

専門相談対応分野

ヘラ絞り (塑性加工)

ヘラ絞りは、金型の先端に加工する円板を取り付けて回転させ、「ヘラ棒」と呼ばれる工具を円板に押し付けて金型の形状に添わせて変形させていく加工技術です。ヘラ棒を当てる角度や力の入れ具合に微妙な力加減が必要であり、力加減を誤ると折れて曲がってしまったり、破れが発生しやすいことから、「経験と勘」がものをいう技術であるといえます。雪山シボリでは、主にプレス加工で製造することができないバイクのマフラーや集塵機のダクトの成型、また最近では管楽器のミュート(消音器)など特殊な形状を要求される製品や試作品の加工を行っています。加工する材料は主に鉄、アルミニウム、ステンレス、真鍮、銅、チタンなどです。



ヘラ絞りで作った製品の数々

マイスター Profile ~資格・実績・受賞等~

2011年には、ホームページを開設しました。WEBを通じて製作依頼の受注も開始しています。

<http://hp.nagoya-cci.or.jp/yukiyama-ss/>

2015年7月には、テレビ東京で人気のある「和風総本家」(製作:テレビ大阪)において、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団のトランペット奏者が愛用する雪山さんのミュートが紹介されました。





有限会社雪山シボリ 代表取締役社長 雪山 有司 氏

所在地 浜松市東区中野町1992-1

- ◎1941年
掛川市生まれ
- ◎1957年
親戚のヘラシボリの会社に就職
定時制(夜学)に通学しながら、ヘラシボリを習得
- ◎1960年
旧豊島実業高等学校
(豊島学院高等学校)卒業
- ◎1967年
友人と独立
- ◎1972年
神奈川県川崎市で創業
- ◎1985年
浜松市中野町に移転
- ◎1995年
有限会社雪山シボリとして
法人改組(現在に至る)

中学校を卒業して、16歳で川崎市にある親戚のシボリ加工の工場に就職しました。定時制の高校に進学したので、夜学に通いながらの修行でした。当時、シボリ加工の技術は誰も教えてくれず、すべて盗めというものでした。先輩たちのシボリ加工のやり方を見たり、加工で出る音を耳で聞いたり、まさに五感を使って観察していました。そして一日の仕事を終えた後で一人だけ工場に残り、機械を動かして余った材料を使い、シボリ加工の練習を繰り返していました。

今は自動化も進み、盗んで技術を身につける時代ではないのですが、こうして身につけた加工方法は、自分自身の身体が覚えているもので、細かな技術を人に伝えることは容易ではありません。しかし、ヘラシボリという特殊な技術を後世に伝えていきたいという思いで日々の仕事に取り組んでいます。

しごとの相棒

手絞りの機械は、始めた時はベルトがけで回していましたが、昭和47年ごろからはモーター付きのものを使い始めました。それから現在に至るまで、いまだにその機械を使い続けています。また、手づくりのヘラ棒は、それぞれその人独自のアイデアが組み込まれており、自分の体格に合わせて細かく調整して作るので、違う人の製作したヘラ棒は身体にうまくフィットせず使うことが出来ません。



加工しやすいように先端の形状を工夫したヘラ



ノックピンの穴
ヘラ棒を当てる角度を様々に変えられるように数多く開けられている



金型に添ってヘラ棒を当てて変形させていく

プロフェッショナルの視点

ヘラ加工は、変形するにしたがって素材の持つ硬度が増していきます。手際の良さが大事で、時間をかけ過ぎると素材が伸びて要求される板の厚さよりも薄くなってしまい、寸法どおりに仕上げられなくなるため、いかに素早く加工して形を仕上げるかが重要となります。一生勉強です。自分のアイデアを出して、工夫することを自分で見つけて、応用する。色々挑戦して失敗する事も大事です。

仕事の手応え/喜び/やりがい

お客様は、自分の持ってき図面を私に見せながら、「これはできますか?」と尋ねてきます。そして、私とその図面の寸法通りに加工を仕上げると、「できましたね。」と喜んでくれます。その笑顔を見たときに、自身の仕事に対して手応えや喜び、やりがいを感じます。また、手作りの良さが海外からも評価されたときには、当社の品質が世界に認められたと感じ、大きな達成感を覚えました。



プロになる方法

若い時期にどんなことでも我慢して、少なくとも10年は継続することがとても大切だと思います。10年続けることができれば一人前になったといえると思います。また、自分の仕事を好きになることや、自分なりのアイデアを考えて、挑戦することも重要です。失敗することもあるでしょうが、「失敗は成功のもと」と昔から言われているように、失敗しても途中で嫌にならず、どんなことにも興味をもって挑戦することが大事です。



チタンのヘラ絞り加工